

建築士

おおた

秋季号

2016 NO 117



公益社団法人 大分県建築士会

CONTENTS

1. 27年度公益事業の成果	日田支部	櫻木弘三郎
	別府支部	浅野 健治
4. 石積み	日田支部	養父 信義
7. 大分みちくさ小道	大分みちくさ小道実行委員会	
8. インフォメーション（支部便り）	佐賀関支部	井上 雅順
	佐伯支部	梅井 達也
11. マイワーク	大分支部	首藤 顕道
	大分支部	松田 周作
	別府支部	今橋 周作
	別府支部	浅野 健治
13. マイベストブック	臼杵支部	平 清朗
	佐伯支部	北口 芳康
14. 我が街の建築士紹介	玖珠支部	後藤 聖和
	日田支部	宇野 洋平
	宇佐支部	宮川 栞季
16. マーボアの旅先日記	会 長	井上 正文



■ 表紙説明 ■

表紙のイラスト

別府駅前高等温泉

別府支部 新山 俊則

日田支部 櫻木 弘三郎

【平成27年度夏休み親子折り紙建築教室】

日田支部青年部の継続事業である、夏休み親子折り紙建築教室を平成28年8月11日に日田市複合文化施設AOZEにて開催しました。

運営方である私たちの悩みは参加者の動員です。近年は日田市内小学校高学年の児童を対象に折り紙建築教室を実施していたのですが、30名の募集に対し10名強の応募と毎年参加者の動員に苦戦していました。夏休みとはいえ最近の小学生は部活動や習い事で忙しくしており、週末は保護者を伴い不在になるケースが多く、参加したくても参加できないという声があったことから、今年度は新設されたばかりの祝日山の日（8/11）に日程を選定し、高学年のみならず全学年を対象とすることで動員増を試みました。結果、動員に関していえば募集人数30名を大幅に超える応募があり、日程選定と高学年に限定しないことが功を奏したと言えます。今後もしばらくは「8月11日は折り紙建築教室がある」と認識していただけるように周知していくのも良い手立てだと思います。

建築士会日田支部も例外なく会員数が減少傾向にあります。参加者多数になれば、必然的にスタッフも多く必要になるわけで、折り紙建築教室に限らず事業を開催する際には頭を抱えるのですが、恵まれていることに市内には建築科のある日田林工高等学校があります。今年を含めて過去3年に亘り建築科の生徒にボランティアスタッフとして協力いただきました。建築の道を志す若者たちと一緒に事業を行なえるのはとても有意義な機会と考えます。

さて、折り紙建築教室の当日は建築士会日田支部会員10数名と高校生9名のスタッフで30名の児童をお迎えし、一通り注意事項と作り方を説明した後、1～3年生用と4～6年生用に分けたそれぞれ3課題に取り組んでいただきました。私の説明不足によって難しい課題から作り始める児童がいて混乱を招いた一幕もありましたが、スタッフの皆さんが

上手くフォローしてくれたこともあって、なんとか続行することができました。また、高校生スタッフの冗談を交え、一緒に楽しみながら子ども達とコミュニケーションを図る姿を頼もしく思いました。

楽しみながら泣きそうになりながら、紙を切って折り曲げて、一生懸命に作業を行なう子ども達を可愛らしく思います。低学年のお子さんにはちょっと難しい課題でしたが、その時には親御さんが手解きし一緒になって取り組む（親御さんが真剣になってしまうという微笑ましい光景もありました）ことで、親子の絆を深める一助になったかと思います。長いようで短い2時間の親子折り紙建築教室が終わり参加者へ感想を求めたところ「難しかった」でも「楽しかった！」と子ども達の満面の笑み。10年後、20年後、この時の小学生、高校生と一緒に建築の仕事に携わる時がくるかもしれませんね。



別府支部長 浅野 健治

動) 杵築城下町 (街並み調査: 酔屋の坂・佐野家など)

平成27年度公益事業「別府湾岸景観調査」

◇はじめに

別府湾岸沿いに生活している我々にとって「建築士が考える景観ってなんだろう?」そんな疑問が湧いてきた。以前、懇意にしている日出町の漁師さんに頼んで底引き網漁の体験をしてもらった。正月のアルコール気分が抜ける1月の半ば、まだ薄暗い深江港を6時に出港し、別府湾の沖へと向かった。四国方面よりぼんやりと明るくなる中、瀬戸内海航路のサンフラワーが近づいて来る。当たり前ではあるが漁船に比べて巨大である。漁場へ向かう漁船と別府港を目指すサンフラワーが300メートルの距離でシンクロする。そのとき、朝日によって高崎山や鶴見岳の山肌の明彩度が上がっていく。群青の波がきらめきだす。日出町を振り返ると、何やら町がザワザワと目覚め始めようとしている。これはもう感動である。

明治から大正にかけて、経済の交通手段が海上から陸上に変わる大きな変革の中、人間の視点は陸上を中心に景観を考えるようになったと考えられる。海上から陸地を眺めることはめったに無い。しかしながら、別府、日出、杵築の街並みが形成されたのは、海上交通が盛んであった江戸時代である。当時の人たちは、海上から見た港やお城の景観を考えたに違いない。そのように考えると、別府湾岸の景観を海上から見た場合と、陸上から眺めた場合にどうであるかを考察したくなってきた。即行動である。今回の調査が、今後の別府湾岸の景観についてより望ましい提言ができるのではないかと考える。

◇調査の概要

(1)海上調査

- ・日時 平成27年11月15日(日) 9:00~17:00
- ・調査方法 船から市街地の景観を調査、各寄港地で街並み等調査
- ・調査場所

- ①楠港~②国際観光港~③亀川港 (寄港~港周辺調査) ~④豊岡漁港 (覚正寺・玖珠街道など) ~⑤日出港 (日出城址・致道館など) ~⑥大神漁港 (回天記念公園など) ~⑦守江港 (寄港~車で移



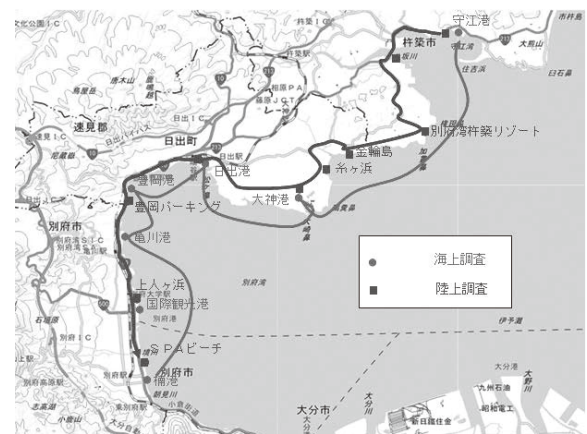
海上調査の状況

(2)陸上調査

- ・日時 平成27年12月15日(火) 9:00~17:00
 - ・調査方法 自転車を使用し、海岸線の景観調査・各ポイントで景観調査
 - ・調査場所
- ①守江港~②杵築城下 (橋詰公園) ~③別府湾杵築リゾート~④金輪島~⑤糸ヶ浜公園~⑥大神港~⑦日出港~⑧豊岡パーキング~⑨上人ヶ浜公園~⑩SPAビーチ



陸上調査の状況



景観調査ルート

◇調査結果など

調査結果及び別府湾岸の景観に対する提言等を報告書として取りまとめ、また、別府湾岸の景観のすばらしさをより広く伝え、私たちの活動を知ってもらうため、パンフレットを作成しました。

別府湾岸 景観調査 報告書

建築士が考える景観とは？

文書だけでは伝えきれない、現場から大正にかけて、人間の視点は地上を中心に景観を捉えるようになってきたのではないだろうか？
海上調査が導入された江戸時代に景観が育まれた別府湾岸の形。
今後の別府湾岸の景観について、より質の高い景観を実現するためにも、調査も「ドローン」から始めてみようという意図をこめて制作しました。

【海上調査】

- 調査日時：2015年11月15日(日) 9:00~17:00 ■ 参加者 6名
- 調査方法：船から市街地の景観を調査。各寄港地で街頭調査
- 調査場所
別府湾：横濱～国際観光港～亀川漁港(南港～港南調査)
日出町：豊岡漁港(東正寺・松島町など)～日出漁港(日出城址・佐藤記念公園など)
村野湾：守江湾(南港～東で移動) 村野城下町(南港調査・豊原の森・住野寺など)

【陸上調査】

- 調査日時：2015年12月15日(日) 9:00~17:00 ■ 参加者 10名
- 調査方法：自転車を使用し、海岸線の景観調査。各ポイントで景観調査
- 調査場所
村野湾：守江湾・村野城下町(南港公園)・別府湾村野リゾート
日出町：金輪島・赤ヶ浜海浜公園・大神漁港・日出港・別府湾口イサキホテル
別府市：上人ヶ浜公園・SPAビーチ

◇今後について

今後も別府湾岸の景観のすばらしさを伝え、残していくために、建築士としてかかわっていきたいと思っています。活動はもちろん楽しく！！

「建活」始めませんか？

建活とは一大分県建築士会のメンバーが交流を深め、情報交換や海上・陸上調査、研修会などを行い、楽しみながら建築の事業に携わっていく活動

■こんな仲間と募集中です！

建築士会は「建築士法」で定められた建築士を会員とする団体です。建築の設計・歴史・まちづくり・工事・行政・教育、多くの分野で活躍するメンバーで構成されています。
建築物による災害から住民の生命・財産を守り、安心・安全に暮らせること、豊かな建築文化の創造発展のための活動をしています。
大分県建築士会では、「人・暮らし・地域」に寄り添って共に歩む会員を募集しています。

■こんな「建活」しています！

- 住宅耐震診断のほか、災害時の建築物危険判定など
- バリアフリー改修・設計など、住宅・建築についての相談活動
- 歴史的建造物の調査や景観整備など、地域の資源を活かした、まちづくり計画の提案
- 子供大工教室や折り紙建築教室など、子供たちに向けた建築への興味を育てる活動

■「建活」のメリット

- 公認建築士 大分県建築士会に参加することで、社会的信頼度がUPする
- 多くの建築士との交流を通じて、情報・ノウハウ・地域に対する問題意識の共有が可能
- 海上調査や陸上調査など、個人では難しい調査活動が可能

■入会についての詳細・お問い合わせ

公益社団法人 大分県建築士会
〒870-0045 大分県中津市城野町1-3-31 富士米沢大分ビル3F
TEL:097-532-6607 FAX:097-532-6635 HP:http://www.otta-shikai.or.jp mail:info@otta-shikai.or.jp

湾岸景観と建築士

15年が経ち、日出町に保存する目的の高層「新江戸丸」の保存修繕が進んできた。新江戸丸は今から約350年前に日出藩3代下屋長高が参勤交代のあり、異時・異地のために舟を繋いだ大分県に唯一残存するお家である。様々な保存修繕のための活動を行ってきたが、なかなか進展しない。そのため、今期の別府湾岸景観調査を思い立った。
別府、日出、村野は古来より海に由来する文化を持ってきた。海上と海水が接する海岸線は多様な変化に富んでいる。それぞれの景観にある風光明媚な湾、個性豊かな漁港、海際に広がる海城など、どれも取って海上の船舶から眺められたことを意識して建てられていることがよくわかる。

大分県建築士会 別府支部 支部長 浅野健治

Let's go! 陸上調査

景観調査の概要

別府湾岸の景観について海から陸からの調査をすることを、あわせて別府湾岸の景観の素晴らしさを調査し、景観を守っていく必要を感じた。今後この素晴らしい景観を守り、活用するための次のことを提言したい。

- 自然環境の保全・形成
- 別府湾岸からの市街地を望む山々の景観の保全
- 海岸線や砂浜の保全や維持管理の徹底など海沿いの景観の保全
- 海岸沿いに緑の帯を形成すること、必要に応じて緑地の形成を図る
- 建築物等の制御
- 海岸からの山々の景観を保全するため、眺望を妨げる大規模な建築物の高さ・色調などの制限について検討が必要
- 海岸沿いの屋外広告物の大きさや色調の制限について検討が必要
- 建築物は、その地域の特性に合った形態を整えることが望まれる
- 眺望架の整備
- 眺望スポットを中心とした眺望架の整備が望まれる
- 眺望スポットの整備
- 眺望架や眺望スポットをめぐって展望デッキやベンチの整備が望まれる
- 釣りなどの地域の特色を活かした眺望架の整備
- 情報提供、PR
- 別府湾岸の景観をPRするため、情報提供が必要。各地区でのイベントや、風景的遊覧バスなどの活用が望まれる

1 日出港

日出港は古くから漁港として栄えてきた。日出港の歴史は日出城址にあり、日出港の歴史は日出城址にあり、日出港の歴史は日出城址にあり。

2 日出漁港

日出漁港は日出港の歴史を継ぐ。日出漁港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。日出漁港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。

3 日出城址

日出城址は日出港の歴史を継ぐ。日出城址の歴史は日出港の歴史を継ぐ。日出城址の歴史は日出港の歴史を継ぐ。

4 日出港

日出港は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。

5 日出港

日出港は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。

6 日出港

日出港は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。

7 日出港

日出港は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。

8 日出港

日出港は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。

9 日出港

日出港は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。

10 日出港

日出港は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。日出港の歴史は日出港の歴史を継ぐ。

- 3 -



十日前（8／19）に日田支部編集委員より、投稿の依頼を受けた。何を書けばいいのと問えば、暫く投稿されてないので、何か温めている物があるのではないですか？との事。

右から左にサッサと書けるものが有れば良いのですが、右から左に行くのは、耳の筒抜けの話であり、見聞したものが頭の中に残っていない昨今。

自称38歳と言っていたが、これも難しくなった。……しかも廿日間でメ切との事。……突然話は変わりますが、

先の熊本・大分地震で被災されました皆様方へ、心よりお見舞い申し上げます。「文化財ドクター派遣調査」熊本県の第一次調査を終え、これから大分県の第一次調査に取り掛かる準備をしている8月末です。熊本の被害は、新聞・TV等でご存知の通り大変な被害です。大分県の被害も耳に入ってきますが、これからの調査で歴然となると思います。熊本城、阿蘇神社など言葉を失ってしまいます。これ以外の県市町村レベルの地方文化財やこれに準ずる未指定物にも完全倒壊（写真1）など目を覆う物件が多数あります。



写真1 激しい横揺れに合い
2階床組部で折損倒壊した寺院の山門

これらの修復には、数多くの人手や資金が必要となりましょう。地盤が強固でなければ、建物が良くても存在が難しい事は、今回の地震で解りました。

しかし、熊本城の隅石だけで持ちこたえた飯田丸五階櫓（写真2）、出隅工法の算木積みには感心するばかりです、正に孤軍奮闘の体である。

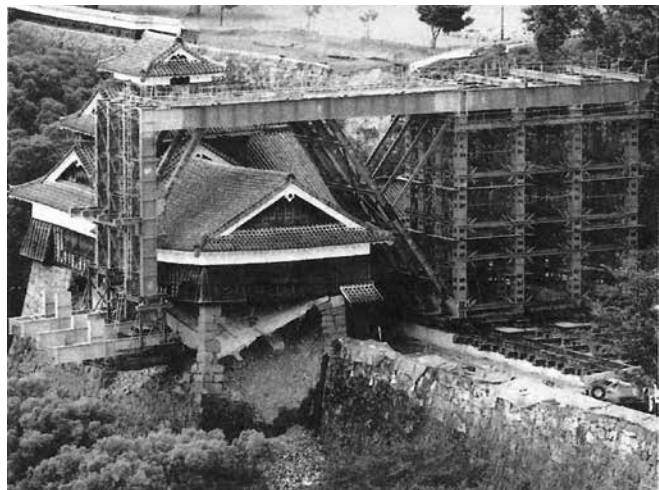


写真2 隅石だけで持ち堪えた飯田丸五階櫓

石積みは「石垣」「石築地」「石塀」や「石壁」などに分類できると思うが、江戸期以前から我が国において伝統技術として発達してきている。しかし、年代は下がり人力仕事から機械化が進み、伝統技法が衰退して来た。どの分野においても技術を受け継ぎ次代へ継承する技術者が不足、いや、居なくなった。……大変なことである。

今回8月27日・28日と一泊二日で、NPO法人「本物の伝統を守る会」の見学研修を行った。旧佐世保無線電信所と軍艦島に長崎市の教会群を視察研修した。キリシタン迫害解除後の西彼杵半島地区の暮らし向きや生活様式、歴史の推移などは、この地方の石積み文化に感じ取る事ができた思いである。

石垣、石塀、石壁などの構造物は、すべて同じ手法で築かれていた。石積みを使用されている石は、この地方の地質である結晶片岩（剥離性に富む変成岩）であり、扁平に加工がしやすく、厚みも持ち運びや積み重ね作業の容易な8～10センチメートル。長さも20～30センチメートル程度である。これ等の石を大小取り揃えて順次重ね積みする。（仕事の程度の良い石積みは厚さなどが揃っていて見栄

えがする。急ぎ働きの仕事はゴロタ石などが交じっているのもある)

何時のころから施工されていたかと言うと、文献では宝暦や文久(1760. 1860)頃の絵図に描かれている由。江戸期の技法は、赤土に切り藁を混入した練り積みである。明治に入り、キリシタン迫害解除に伴い長崎各地に教会がたてられ、宣教師が赴任して来る。この地にやって来たのがフランス人のマルコ・マリー・ド・ロ神父である。ド・ロ神父は博学であり、建築学、農学、経済学などに秀でていたようで、宗教だけでなく生活支援まで指導していた。神父は出津教会(1882年)を建て、次に出津救助院など建築。1893年下大野町26戸の信徒は、出津の教会までは距離が有り、大野教会堂(写真3)をド・ロ神父の設計の元、自分たちで建築した。



写真3 大野教会堂：26戸の信徒で造った
素朴で質素な教会

地元に伝わる伝統技術の石壁とド・ロ神父のもたらした水に溶かした赤土と砂と石灰を混ぜ、石を積み上げる(地元でド・ロ壁と呼ばれる)西洋技術と融合した民家風の教会堂である。これらの作品が、大野教会堂・大平作業場跡の遺構(写真4)や出津救助院のド・ロ塀などにも数多く残る。



写真4 大平作業所跡:石積みの遺構が良く解る

また、大平作業所跡から出津教会堂への道すがらの周囲に人家はなく一戸だけ残る平屋建ての民家(写真5)も外壁は石壁で、屋根は木骨組竹野地下べた土置き葺瓦葺きである。おそらく明治当初頃の建物と思うが、個々の住まいにも取り入れられた工法であり、この地の里人には当たり前のことであり、当然の如く自分達で加工し、作業し、建築したものであろう。



写真5

また、江戸期の建物の屋根は草葺き(藁・茅)であり、石壁の上に桁を敷き、梁を渡して又首を組み屋根を葺く。石壁と合わせてこの様な工法であれば専門職(大工・石工)は必要なく自分達だけで住まいが完成する。私達の地域の石積みなどは、割石の太さも大きく専門職でないと施工は難しい、しかし、この地の石は単体の大きさが小さく、重量も軽くて積み上げやすく、自分達だけで施工できた。こうして長年培ってきた石積み(写真6)の技法は、里人

に代々受継がれてきたわけである。(某大学の文化財関係者が見学に来て…この近辺には素晴らしい石工さんが居ましたか?との問いが有ったとか…それだけ見事な石壁。)



写真6

ド・ロ神父の赴任により、里人たちを裕福にしようときまざまな産業を興す。お茶・製粉工場・マカロニの製造・カンコロ芋粉(写真7)の製造(昭和の終戦直後には輪切りにしたカンコロ芋を供出していたのが、左から右に走る。)などの事業を手掛けて、信徒の発展に努めている。

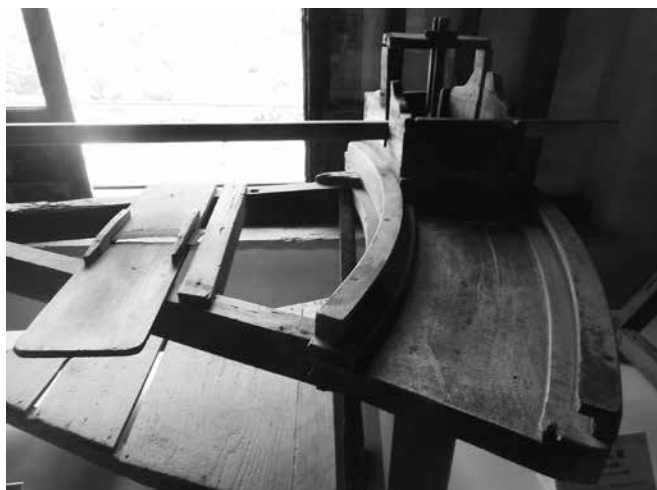


写真7

大野教区で26戸あった信徒は、現在8戸となった。出津教会も1,000人超の信徒が、660名になったとの事。年々減少の傾向にあるとの事。では、その信徒たちは何処に行ったのでしょうか。浄土真宗に鞍替えしたのでしょうか?それとも、子供たちが都会に出て行き人口減少によるものなのでしょうか。はたまた、無宗教層になったのでしょうか。それとも、個々が裕福になり、心のよりどころを求めなくても良くなったのでしょうか?…。(写真8)



写真8

大分みちくさ小道

大分みちくさ小道実行委員会

前回、大分みちくさ小道のまちあるきについて寄稿しました。読んで頂いた方には、多少なりとも私たち大分みちくさ小道の活動が分かって頂けたと思って書き進めたいところですが、読み飛ばした方の為に少しだけ説明をさせていただきます。

2012年から大分のまちあるきプログラムを実施し、今年で5年目となります。大分みちくさ小道のまちあるきは、誘い人が案内人となり、その方が得意とするものを案内するまちあるきが特徴です。

例えば、「建築家の事務所ツアー」～普段は入ることのない建築家の事務所を巡りましょう！をテーマに、大分のまちなかにある建築家が設計した事務所を巡り、実際に設計した建築家本人から建築家ならではの視点で解説頂きました。



また、2015年に実施した「帰ってきたあこがれのまち暮らし」は、“いつか住んでみたい。あこがれの物件はすぐ目の前にあります”をテーマにしたプログラムです。実際にまち暮らししている誘い人が大分市中心市街地にある物件を見学しながらまち暮らし実現への思いを高める内容です。



公園そばの物件を借りてまち暮らしをすると、普段見る風景とは違う風に街を見る事ができるんだと新たな発見もありました。

また、まちなかは、1階、2階が店舗物件で3階以上が住居物件というものも多く、眺めがよいのも特徴。そこも良さだなど街暮らしから少し郊外暮らしの私は思うのです。まちなかの賃貸物件を見学させて頂いて思うのが、古い間取りのものが多いこと。現在のライフスタイルにあうような暮らしやすい間取りで建築家の方がリノベーションした物件が増えると面白いだろうと思います。建築家の皆さんが手掛けたまちなかの素敵なりノベーション物件ができるのを心待ちにしつつ、そんな物件が出来上がった時には、ぜひ大分みちくさ小道に声をかけてください。そして、まちあるきでその物件を巡らせて頂ければ、なんて想像が膨らみます。



写真は好評だった「大分市美術館のバックヤードツアー」のもの。今年ももうそろそろまちあるきの季節。毎年大分みちくさ小道のまちあるきを楽しみに待っていてくださる方々の為にも、何かしらお伝え出来るように、計画していますので、お待ちくださいませ。そして、建築士会の皆様には、誘い人としてのデビューをお待ちしています。

大分みちくさ小道 <http://oitamichikomi.com/>



佐賀関支部活動報告

編集委員 井上 雅 順

こんにちは。佐賀関支部の活動報告です。

春先から公益事業の予備調査として「伊予街道（通称・龍馬街道）調査」を予定していましたが、雨天による四度の延期を乗り越え、クソ暑いこの時期にようやく念願かなって調査を行いました。

7月16日の午前11時前に佐賀関市民センター（幕末に勝海舟や坂本龍馬達が上陸した地点）に集合し、案内をしてくれるボランティアガイドの方達と合流&ミーティング。



天気予報は「曇り一時雨」という中、やっと迎えた調査の日に「なんとか大丈夫そう」と都合よく脳内変換し、いざ出発です。

龍馬街道の入り口までここから450m。まずは中間地点にある「若御子社」で黒砂と真砂の二人の海女神を祀った石碑を見学。この二人の海女の伝説はその昔、神武天皇の時代に速吸（早吸）の瀬戸の海底に棲む大ダコが守っていた短剣を取り上げ、それを神武天皇が御東遷で来関した際に奉納。それが早吸日女神社のご神体になっている。というものです。いつかその伝説の剣を一度見てみたいものです。

そして龍馬街道の入り口へ着くと、そこには峠越えについての説明書きがあり、「明治三年に海岸沿

いの道ができるまで村人達はこの峠越えをしていた。三つの起伏の厳しい峠は大人の足でも一時間半かかる。勝海舟や坂本龍馬達もこの峠を越えて鶴崎へ向かった。」とあります。

わくわくする気持ちと帰りたい気持ちとの間で揺れる不摂生ボディな筆者を尻目にボランティアガイドのおじちゃん達は元気に登っていきます。「俺は編集委員。記録するのが仕事だぜ！」と覚悟を決めカメラ片手に後に続きました。



最初の峠は「有屋峠」といい、比較的緩やかな峠です。「何とかいけるんじゃないか？」と思い始めた直後、顔にぽつりと雨が…。気付かないふりをしていたら数分後には大雨に。あわてて木陰で雨具を取り出したら、雨具を持っているのはほんの2、3人。ガイドのおじちゃん達も「何も持ってきちょらん（笑）」とずぶ濡れのまま峠越えを続行。「絶対この中に雨男がいる。」と疑心暗鬼になりながらもまずは有屋峠を無事に越えました。その途端に雨も止み、陽がさしてきたので雨具を脱ぎ再びリュックの中へ。雨上がりの緑のむせるような匂いを大きく深呼吸しながら、続いて「虎御前峠」を登っていきます。



さっきから感じているのは「ボランティアガイドのおじちゃん達の歩く速度の速さ」です！雨上がりの落ち葉で滑りやすい山道をすごいハイペースで息切れもせず大きな声で説明をしながら登っていきます。こっちは着いていくのがやっとで息も絶え絶えなのに…。

「この階段を作ったときは苦労したんじゃ」

「この大量の土嚢袋もわしらが運んだんじゃ」

と説明してくれるおじちゃん達を見て、日頃の運動不足と不摂生でゼーゼー言ってる自分が恥ずかしくなりました。そしてヒィヒィ言いながらリタイアしたい気持ちをどうにか耐えて虎御前峠の頂上へ。



虎御前の由来は昔、「虎御前」という名の尼が全国を行脚し各地に供養塔を建てたらしく、そのうちの1基がこの場所にあった事が由来とされ、その塔は今も残っています。ここには大小の石塔2基と地蔵経塚があり、大きいほうの石塔は元禄2年（1689年）に建てられた事が書かれています。この種の石塔としては非常に大きい物であったらしいです。また、「トラ」というのは「石の傍らで修法する巫女の呼称で集落の祈願、個人の祈祷を行い農漁の豊凶、予言などを行う婦人の事をいう」という話もあり、その女性祈祷師がこの地で旅人の無事を祈願していたからその名がついたという説もあります。ガイドさん曰く「一説には付近に湧水もあった事から峠のお茶屋があったのではとも言われている。」という話を聞き、TVの「水戸黄門」で八兵衛が峠の茶屋で団子を頬張るシーンを思い浮かべ、遠い昔の旅人達がホッと一息ついてるところを想像してしまいました。

虎御前峠を下り、続いて最後の難所、「篠生峠」に入ります。三つの峠越えで一番キツイのがこの峠です。峠の途中に広場があると思ったら「佐賀関

合戦の際、竹田から攻め入ってきた中川公の一行がここで朝食をとった」と立札があり、「本当にこんな峠を越えるしか当時は交通手段がなかったんだ。」と思い、現代の交通社会の便利さをヒシヒシと感じました。

それにしてもキツイ。足がやっと前に出てる感じ。息も絶え絶え。マジでリタイアしようかな。でも記録写真は撮らないと。ガイドのおじちゃん達は相変わらずハイペースで歩き、会話も普通にしています。この人たち…まさか妖怪？

なんとか小志生木地区に下るとガイドの別メンバーが車で仲間を迎えに来ていて、「じゃあ私はこれから道の駅さかのせきで昼ごはん食べるから、あんたらはここで各自持ってきたお弁当食べるよ。後で迎えに来るから。」と言い残し消えました。本当に元気な老人たち。あのパワーが無いとボランティアで観光ガイドなんかできないのかも…。残された建築士会メンバーは草むらに遠足シートを広げお弁当&反省会。まず筆者のコメントは開口一番「二度と行かん!!!」でした（笑）

やはりみんな口を揃えておじちゃん達の歩く速さに驚いてました。…よかった僕だけじゃなかった。ちなみに今回の調査で歩いた距離は全行程約7km程で、高低差138mでした。すごいぞGPSアプリ！



今後の課題としては街道の整備とガイドシナリオを工夫することです。本番では、皆さんに来てもらい竜馬気分になんか浸っていただきます。しかし良いコースですよ。ただし「ドM」な人向けですが（笑）。

以上、佐賀関支部でした。



公益事業としての新たな取り組み 木工ワークショップを終えて

佐伯支部 青年部長 梅井達也



不安を抱えたままのスタートで無事にゴールできるのか?と思ってました。しかしそんな不安を横目にワークショップ会場は楽しそうに作業をする親子の姿で溢れてました。場所は佐伯市文化会館下の三余館ホール。予定組数12組を超えて15組参加を戴き、一工程毎に資料による説明を食い入る様子で見た後、実際に自分達で作業する子供達、そしてその作業をサポートするご家族の方達。紙やすりを使っての面取り、ホゾ穴への組み込み、天板への真鍮釘の打ち込み、差し金を使った墨付け、鋸を挽いての切り揃え。全てが子供達には新鮮な作業のようで、失敗をしたりしながらも終始親子の笑い声が絶えない会場となりました。無事に作業を終えた後は全員での会場の清掃。そして自分達で作上げたイスに座ってかき氷を食べていただきました。帰路につく親子の会話で「オイルステインを買って帰って更に仕上げよう」と言うのを聞き、確かな手応えを感じる事ができた今回の試み。改善していく点もありますが、今は無事に終えて次に繋がる手応えの余韻に部員全員浸っています。さて!来年は何を作ろうかな?(笑)



2016年8月21日。連日の猛暑が続く中、世界はブラジルで開催されているリオオリンピックに熱中し、夏の暑さを巻き込んだ熱い日が続いていた。そんな熱さの中、佐伯支部も公益事業の新しい取り組みを今正に始めようとしていた。【木工ワークショップ・佐伯の木材で佐伯の大工に学ぶイス作り】である。建築士会が公益社団法人となってから数年。佐伯支部でも色々と思案し、公益事業を行なってきました。折り紙建築、建築無料相談等々。そこに今回初の試みとなる木工ワークショップが提案されました。佐伯支部としての公益事業を青年部が主体となり準備を進めさせていただきました。提案者である副青年部長の河野功寛さん、後藤好信さんを主軸とし、稼動し始めた取り組み。幾度と無く会議を重ね、数々のこだわりを入れていきました。「親子を対象とし、物作りを通してのコミュニケーションを」「佐伯産の木材を使用しよう」「大工さんの技術を入れたイスにしよう」そうしてできたのが「佐伯産の杉と桧を使用したホゾ穴加工による組み込み式のイス」でした。ホゾ加工を知ってもらうための資料作り、ホゾ穴の加工、使用する道具の確保。全てを少数の青年部員で実行し迎えた当日。



MY WORK

- ★建物名称 フラワーショップ花音
- ★建築場所 大分県佐伯市長島町四丁目
- ★面積 156.50㎡
- ★用途 店舗併用住宅
- ★設計者 首藤顕道建築設計事務所
- ★設計趣旨

佐伯市内に建つ店舗併用住宅である。施主は花屋を営んでおり、1階を店舗、2階を居住スペースとした。店舗移転に伴う新築工事である。

外壁は軽量モルタル通気工法下地の上に、外装仕上塗材ローラー仕上とし、ガルバリウム鋼板製の庇をアクセントとして用いた。店舗内部にはスギ材で横格子を製作し、差し込むだけで使用できる可動棚板によりディスプレイの変化に対応できる計画とした。カウンターにも同様の格子を用い、内装のイメージを統一した。

店舗の顔にもなっている、入口に設置したチェリー材の木製建具の色の変化を楽しみながら、末永く愛される建物になって欲しいと願っている。



- ★建物名称 HOUSE I
- ★建築場所 大分市
- ★構造 木造平屋
- ★用途 住居
- ★設計者 松田周作建築設計事務所 松田周作
- ★施工者 有限会社 ナカヤマ建材店
- ★設計趣旨

施主のご両親が過ごす為の離れを、新築による増築として、設計しました。

離れは、既存の山桜を正面に配置しました。

母屋と離れをつなぐ渡り廊下はガラスを多用し、既存の庭を愛でる為の空間としました。

渡り廊下に溜まりをつくり、サンルームとすることで、桜の季節には、花見の為の空間として機能します。

離れの和室は、障子に木漏れ日の陰が映り込み、10寸勾配の切妻屋根の高いトップライトからは、柔らかな光が降り注ぎます。



MY WORK

- ★建物名称 別府商工会館
- ★建築場所 大分県別府市中央町7-8
- ★構造・延床面積 RC造4階建 1642.14㎡
- ★用途 事務所
- ★設計者 周設計工房
- ★施工者 長幸・幸建設工事共同企業体



- ★建物名称 オリジナルボタニカル
- ★建築場所 大分県別府市扇山
- ★構造・延床面積 木造平屋建 157.93㎡
- ★用途 アトリエ付き住宅
- ★設計者 浅野住環境デザイン
- ★施工者 (株)浅野建設
- ★設計趣旨



東側に別府湾、南側に樹木が望める癒しの空間。
県産材の杉を多用し、自然の持つ素材を活かした室内意匠が造形的な住まいです。



BOOK My Best Book

マイベストブック

『働く君に贈る25の言葉』著：佐々木常夫

臼杵支部 平 清 朗

この本は、東レ代表取締役や大阪大学客員教授を務めた佐々木常夫が、ご自身の経験（度重なる転勤や破綻会社の再建、妻の自殺未遂、自閉症となった我が子の育児など、仕事でも家庭でも数々の苦難を乗り越えてきた）を元に取り上げたビジネス書です。しかし、ビジネスマンがキャリアアップするための手段に焦点をあてたものではありません。

本書では、新人営業マンの「遼」へ手紙を書く形式で、仕事を効率よく進めるための方法や落ち込んでしまったときの気分転換法など、若手社員に向けた数々のアドバイスを綴るといっていいのですが、本書の主眼はあくまでも「心構え」となっています。

「心構え」というと固いイメージですが、父親が子供に話しかけるかのような口調で書かれており、優しいながらも説得力のある言葉がたくさん詰まっています。

私がこの本と出会ったのは30代後半にさしかかったときで、「10年前に読みたかった。」と心底思いましたが、その時はこの本が存在していませんので、仕方がありません。

また、若い世代対象ではありますが、若い世代以上（40代?）の世代の方々の方々の心にも響く言葉がたくさんつまっていますので、皆様にお勧めいたします。また、年配の方であれば、若い世代の方へのプレゼントとしても良い本であると思います。

仕事と人生に悩んだときに、心の支えになってくれる一冊ですので、是非ご一読のほどを！



佐伯支部 北 口 芳 康

「あらゆる造形活動の終局目的は建築である！」
「バウハウス・歴史と理念」のプロリーグ創立宣言
学生運動も終焉を迎える80年代の初め頃、デザイン科の学生であった私と友の二人は、建築の世界への道を模索して、やがて建築士となる。

阪神・淡路、東日本、そして熊本、大地震の波が身近にせまる、地震や津波に破壊された原風景を前に、建築に携わる者として言葉が見つからない。過去に手にした本の言葉を思い出しました。

「収容所では、1日の長さは1週間より長い」収容所における人間の存在は「期限なき仮の状態」と定義し、時間体験は、過酷な状況にある1日は限りなく続く様に思われ、週は気味悪い程早く過ぎ去って行くように思われる。

強制収容所から奇跡的な生還を果たした精神科医ヴィクトル・E・フランク「夜と霧」の中の1文です。

目を覆いたくなるような、陰惨な過酷な状況にありながら本の表紙の帯にも記されていますが、人間の偉大と悲惨を静かに描いています。

この本には、生きる事の意味、人生とは何かを問い、人間には絶対に奪うことが出来ないものがある、それは「与えられた運命に対して自分の運命を選ぶ自由、自分のあり方を決める自由である」と書かれています。

拙い解説はこの辺りで終わります。

この本は勇気を与えられ、生きる希望を見いだせ、魂を揺さぶる力を持っている、と書評にあります。そしてこの本が被災地で良く売れているそうです。

「戦いにより焼土と化した町」と題された一文、反対の砲火の中町の明日を見据えた首長の決断「焼野原で住宅を少くも建っても乗り越えられない困難さがある、音楽堂を造ることが生きる希望となる。」副題として「建築の持つ力」。

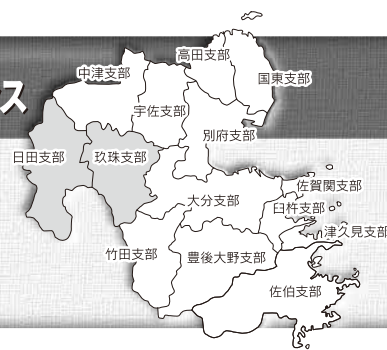


PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

我が街の建築士紹介

(掲載については順不同です)



- ★生 年 昭和54年生まれ
- ★勤 務 先 玖珠町役場
- ★趣 味 旅行、ジョギング、登山、アウトドアクッキング
- ★将来の夢、モットー等

3年前に再入会しました、後藤聖和です。

13年前、途中で玖珠町役場への採用が決まってから、本会とは疎遠となっていました。そのような中、以前勤めていた建設会社の社長から久々に電話があり、何かと思いつつ話を伺うと「玖珠で士会に入らんなら、佐賀関支部に戻ってこい」とのことでした。辞めてから10年近く経つものにもかかわらず気にかけていただいていることにありがたいと思いつつ、丁重にお断りをし地元である玖珠支部で再入会することを決めました。

玖珠支部は若者が非常に少ないので、当面は青年部層の会員を増やすことに頑張りたいと思っています。

将来は、大好きなバンコクに移住して、チャオプラヤ川の風に吹かれながら、昼真から気楽にビールを飲む日々を過ごしたいと考えています。

日本での生活に悔い残すことなく旅立てるよう、仕事と建築士会の活動に全力で頑張ります。



後藤 聖和 (玖珠支部)

- ★生 年 昭和59年生まれ
- ★勤 務 先 有限会社 宇野建築事務所
- ★趣 味 野球、ゴルフ
- ★将来の夢、モットー等

初めまして。日田市の有限会社宇野建築事務所の宇野と申します。

前職は児童向けの野球インストラクターをやっておりました。

4年前に日田に帰ってきて、建築の仕事に係っていく中でたくさんの先輩の方々と出会い、日々刺激をもらっています。これから、人との出会い・繋がりも多く感じられる建物・まちづくりに多く係っていきたいと思っています。

日田支部だけではなく、他支部の方々とも色々な情報を交換していきたいと思っていますので今後とも宜しくお願い致します。



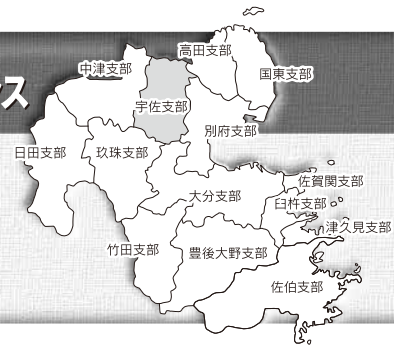
宇野 洋平 (日田支部)

PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

我が街の建築士紹介

(掲載については順不同です)

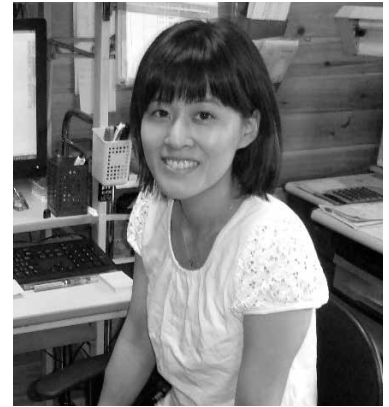


- ★生 年 平成5年生まれ
- ★勤 務 先 (有)宮川設計工房
- ★趣 味 ペットと遊ぶこと
- ★将来の夢、モットー等

今年大学を卒業し、建築士会宇佐支部に入会させて頂いた宮川栞季と申します。よろしくお願ひします。

将来の夢は、現在犬(ミニチュアダックスフンド)を2匹飼っておりこれからもペットと暮らしていきたいと思っているので、いつか自分でペットと過ごしやすい家进行設計し住んでみたいと思っています。

今はまだわからないことばかりですが、少しずつ色々なことを学んでいきたいと思っています。これからもよろしくお願ひします。



宮川 栞季 (宇佐支部)



マーボの旅先日記 その5



会長 井上正文

東京都内にある対照的な 2つの国宝建造物

国宝建造物は全国、132箇所 に点在していることは、以前にもこのコラムで述べた通りです。ちなみに全国47都道府県のうち33都府県に国宝建造物が存在している一方、14道県には、国宝建造物は存在していません。しかし毎年のように、新たに国宝建造物の指定があり、その数は増え続けていくことが予想されます。国宝建造物空白の道県もこれから減っていく可能性もあります。

そんな中、今回は、大分からは遠方とはいえ読者のみなさまも出張等で訪問される機会も多い東京都内に2つのみ存在する国宝建造物について、紹介したいと思います。

まず、1つ目は東京都心（港区元赤坂）にある迎賓館赤坂離宮です。明治42年（1909年）東宮御所として、片山東熊の指揮のもとで造られました。国宝建造物の中で唯一の非木造建築で、鉄骨補強レンガ造のネオ・バロック様式の建物です。内閣府が管理している建物で、見学には事前予約が必要ですが、予約なしでも当日枠の入場券（予約の有無に拘わらず千円が必要）を現地で入手できれば、入場は可能です。交通の便も良く、地下鉄四ツ谷駅から徒歩10分程度です。見学方法については、内閣府のホームページに詳しく出ていますのでご確認ください。かなりの大規模建築であり、内部の各部屋の内装は絢爛豪華そのものです。また、裏手の庭園も一見の価値ありです。室内は撮影禁止なので残念ながら、ここで建物内部をお見せすることはできません。

2つ目は、国宝・正福寺地蔵堂です。東村山市にあります。室町時代1407年の建立。迎賓館とは違ってアクセスはお世辞にも良いとは言えません。西武新宿線東村山駅から徒歩10分程度です。ここを数年前に訪れたことがあります。東村山駅を降り立つと、駅前にお菓子屋さんがあり、入ってみると「だいじょうぶだア饅頭」というお菓子が並んでいました。奇妙なネーミングに、もしやと店員さんに訪ねてみると、ここ東村山市は、人気コメディアン「志

村けん」の出身地とかで、彼の一番ギャグからのネーミングとのことでした。さて、国宝・地蔵堂は、典型的な禅宗様の建物で、鎌倉にある国宝・円覚寺舍利殿にそっくりの建物です。実は、ここを訪ねたその足で鎌倉まで移動して、正福寺とそっくりな円覚寺舍利殿も拝見しました。このように、全国各地の国宝建造物を見て回っていると、これとあれは似ているとか、ここがちょっと違うといった比較が感じられるようになります。これも、国宝建物巡りの魅力のひとつかもしれません。これら2つの国宝建造物を東京出張の空き時間に訪れてみては如何でしょう。



広報委員

担当常務理事 〈大分〉 宮 崎 隆 博
委員 長 〈大分〉 後 藤 悟 悟
委員 〈大分〉 常 廣 竜 也
〈津久見〉 濱 野 一 明
〈日田〉 佐 藤 敏 孝
〈中津〉 佐 藤 博 昭

編集委員

担当常務理事 〈大分〉 亀 谷 芳 久
委員 長 〈高田〉 後 藤 憲 二
委員 〈大分〉 足 立 忠 明
〈大分〉 岐 部 和 久
〈大分〉 日 高 雄 介
〈大分〉 都 瑠 淳 一
〈別府〉 小 山 秀 輝
〈国東〉 野 田 忠 博
〈臼杵〉 佐 藤 暢 彦
〈津久見〉 山 本 忠 昭
〈佐伯〉 長 田 孝 治
〈佐伯〉 疋 田 寛 子
〈佐賀関〉 井 上 雅 順
〈豊後大野〉 佐 藤 勤 也
〈竹田〉 玉 田 智 憲
〈玖珠〉 白 地 泰 幸
〈日田〉 伊 藤 照 幸
〈中津〉 佐 藤 博 昭
〈宇佐〉 渡 邊 賢 一

建築士大分 2016.9 No. 117

(非売品)

平成 28 年 9 月 29 日 印刷

平成 28 年 9 月 29 日 発行

編集／発行所

公益社団法人

大 分 県 建 築 士 会

〒870-0045

大分市城崎町1-3-31 富士火災大分ビル3F

TEL 097-532-6607

FAX 097-532-6635

印刷所／いづみ印刷株式会社

大分市高江西1丁目4323番25号 TEL (097) 535-8655

建築士

おおいた

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高田	879-0625	豊後高田市水取 334 番地 2	0978-22-2216
国東	873-0503	国東市国東町安国寺 718	0978-72-2887
別府	874-0907	別府市幸町 8-32 (株)ユウキ内	0977-22-1921
本部・大分	870-0045	大分市城崎町 1-3-31 富士火災大分ビル 3F	097-532-6607
佐賀関	879-2201	大分市佐賀関 4-3341-4 (株)セキ土建内	097-575-1120
臼杵	875-0082	臼杵市稲田中尾下 1000-1 (有)みえのブロック内	0972-63-6695
津久見	879-2436	津久見市上宮本町 6-22	0972-82-8806
佐伯	876-0833	佐伯市池船町 19-14	0972-23-6099
豊後大野	879-7131	豊後大野市三重町大字市場 2 区	0974-22-6606
竹田	878-0026	竹田市大字飛田川 1618-6	0974-62-3711
玖珠	879-4632	玖珠郡九重町松木 4415-2 藤原工務店内	0973-76-3999
日田	877-0025	日田市田島 1-7-43-1F 102 鈴木建築事務所内	0973-24-6022
中津	871-0024	中津市中央町 1-5-24 中津建築会館内	0979-24-3597
宇佐	879-0453	宇佐市上田 931-3 宇佐建設会館内	0978-33-3395
本部	http://www.oita-shikai.or.jp/		

会員増強にご協力を！

～会員二人で、一人の入会勧誘を～



公益社団法人 大分県建築士会